

19/10/24 バリアフリー検討会議
(名古屋市民オンブズマンによるメモ)

森本：始める

佐治：所長

昨年12月以来の開催
新構成員、第2回バリアフリー検討会議以降、
8/20.21 ワークショップ、 ステップなごや竣工

森本：出席者紹介

西垣、野々垣、麓、磯部、高橋は欠席
写真、ビデオの撮影はこれまでとしてほしい
資料の確認
階段体験館 リーフレット
座長にお任せ

堀越：新構成員の紹介

森本：今年5/31事務連絡

名工大佐野先生のご辞退
5/9お礼とねぎらいをした
今年度 障害者団体の意見を踏まえ、より深く弁護士の加入依頼
愛知県弁護士会に依頼
7/1 矢野弁護士に依頼

堀越：自己紹介を

矢野：福祉と人権が専門

エレベーターの問題と巷に言われている
通常のエレベーターを設置できないため 前提
どれくらい意見を言えるか
従前の議論を知らないまま発言する
もとにもどる議論になるかも

堀越：ご自由に発言を

第2回バリアフリー検討会議以降

森本：資料2説明

3ページ 12/28 検討会議以降

公募市場の調査

連絡調整 参考資料1 8/2 事務連絡で伝えた

19/1/7 人権救済申立て 日弁連

6/22 シンポ 忙しいので受け付けてもらったところ

6/17 障害者団体連絡会 説明会 2時間

主な発言 新しい発言はなにもない 国際コンペありき

7つの基準 新技術が見えない

賛同できない

障害者だけでなく、高齢者、子ども連れを

ワークショップの開催につなげる

7つの基準 参考資料1 7ページ

実技評価 7つのセンテンス

昨年度障害者団体から提案されたものをそのまま記載

7/2 市民署名 約20000筆

8/5 障害者団体連絡会 説明会

5/21 参議院文教科学委員会 「できる限り両立することが望ましい」

8/21 ワークショップ

8/29 市長コメント「竣工時期を延ばすこととした」

参考資料3 新聞記事

前日「共同連」シンポ パネルディスカッション

担当主幹の私が出席

質疑応答 開始時期等 8/29 以降に調整

慎重に検討した 分かりにくい説明であった

あらためて庁内調整をした

10/1 経済水道委員会 障害者団体、庁内会議、有識者会議を踏まえ

できるだけ早い段階で公募したい

9/30 ステップなごや竣工 内覧

堀越：ご意見ご質問を

内容についてはあとでまとめて

次のところで

ワークショップの成果を説明

森本：ワークショップの成果

資料3 8/30 事務連絡と同じもの

要旨 12 団体その他障害者団体及び団体に属さない障害者

参加者 少数だった

ワークショップ内容

ルール作りに障害者が関わりたい、評価に障害者の声を反映してほしい

審査基準（案）への意見

所感 建設的な意見

全員から十分な意見をいただけた

堀越：中身について意見を

山田：8/20.21 6名参加

審査基準 障害者の声を反映していほしい

12 団体とは違うのか？

森本：自由参加

ひざを突き合わせて話す機会はある

SNS ヘイトの問題 心配事があった

12 団体窓口 参加した人はその人たち

団体連絡会 最初は 12 団体の人 ご意見としては、

12 団体に属していない人も出たい 団体に所属していない人も

結果的には 12 団体の人が参加

山田：事実誤認を招く可能性

障害者連絡会 全体の総意と取られかねない

堀越：呼びかけをして、自由に来た人の意見

森本：様々な人の意見を聞いたもの

総意ではない

堀越：ほかには

矢野：資料拝見

障害者差別解消法の考え方
なにをもって差別を解消されたのか
「人の力に頼ることなく昇降できる」
頼むと心理的な負荷がある
「ただしスタッフを呼び出すのはいや」
なにをバリアフリーと考えるか
非常に重視していく必要がある
障害がある人 当然
高齢でうまく上がれない人
もう少し幅広く
高齢はだれでも起きる 見据えて

堀越：なにか事務局から

森本：ありがとう
ひざを突き合わせて話すことが多い
障害者でも様々な個性がある
ひとつひとつ拾っていくのが必要
審査基準でコンペを目指している
いろんな意見を頂戴したい

渡辺：市民団体にもインタビューしているよう
公式・非公式聞き取り
資料は初めて
いままで聞き取り・意見は公開できるのか
審査基準作成：審査そのものに障害者・市民団体 委員として入るかどうか

森本：障害者団体の意見のみならず、高齢者、子育て世代
H30に行った 示すことは可能
委員の立場 障害者の方が参加 考えは持っている
何度も個別、団体連絡会で声をかけている
様々な事情 だれかが名乗りを上げる 個人名で審査 課題
当事者である方が審査、審査基準に参加は間口を広げたい

堀本：せっかくなので皆さんから意見を

小野：特段ありません

小浜：今の話の中 障害者団体 12 団体意見

資料 3 2 ページ目

審査基準 6.7 ページ

審査基準に反対ではないのか？

審査基準案 最低要求基準 ご異議があるわけではない

安全性 ご意見

審査基準（案）には賛成か反対か

森本：ひとことでは言いにくい

賛成か反対か 短絡的に言えない

本市は昨年 5 月に基本方針を出した

実現するための審査基準 多くの障害者団体が協力的に

意見を言ってくれるようになったと実感

個人意見 総意ではないが、これまでのバリアフリー

エレベーターが最高だというのは根強い

名古屋城木造天守にエレベーターを希望

木造ゆえに技術的に入らない

代わりに名古屋城天守を堪能できるように説明

ワークショップをすることは賛同

賛成か反対かというのは難しい

小浜：エレベーターはいろいろある

シャフト型エレベーター 全通型はできない

柱・梁はできない

団体の意見 それを必ずしも要求しているわけではない

同等なら納得するのでは？

森本：エレベーターの概念 1 階から最上階まで一気に行くもの

4 つの部門分け

名古屋市はリサーチ 未来的に発展して向上

きちんとチャレンジするには 4 つに部門分け

全通型ではないけれど 部門 3

垂直昇降装置 シャフトではないが、安心して電動車いすが入るもの

1-4 部門を丁寧に説明した ディスカッションをした

堀越：この時点でいただいた意見

森本：コンペ 「これが正解」ではない

小松：かなり具体的に進め方が見えてきたのだろう

昇降 登るのも降りるのも一緒？

登ると降りるは技術的に別

避難 別に経路がほしい

登るときには時間をかけていい

降りるときには時間をかけてはいけない

非常時に役に立つ

堀越：参考にして

森本：参考にしたい

川地：資料3 冒頭全体 垂直昇降装置

理解された唯一のところではないか

資料3の募集部門 4つにわけて3つ 垂直走行装置

あえて「エレベーター」と書かなかったことに意図があるのでは
納得するものもあるのでは？

話題になっている、宇宙基地へのエレベーター

必ずしも空想ではない

あえてエレベーターとは言わないが、可能性はある

歴史に忠実な復元を前提とする

床だけを垂直昇降装置を開閉する

階段の一部にはシャットする扉がある

連動してやる可能性がある

2022年 2年は延長される

正味5年はある いろんな検討ができるのでは

ステップなごや体験した 住宅とほぼ同じ ゆるやか

コンペを願う

三浦：ワークショップですが、12団体に呼びかけして、たった6人

周知方法が悪いのか

意義を見出していないのか

森本：ワークショップに至るまで、障害者団体に話した
非常に心苦しい 意見を疎通しやすくなった
実現する実行委員会 12団体と同期しているらしい
反対運動 同一人物が障害者団体 教えていただいている
逡巡 難しかった調整
取り込んできちんと対話 もっとお願い、説明した結果、
自由参加の日程調整 「絶対来てくださいね」ではない
開催に同意
だれが来たか 言いづらいが

三浦：理解できた
話した結果、6人になったという経緯があったと書けば、
意義があった
エレベーターの定義が難しい
地震 停止して使えない
障害者、高齢者 上にいったとき、
非常時に使えない
緊急避難 エレベーター使えない 対策が必要になる
エレベーターだけでは困ったことになる
難しいと思う

森本：避難については重要な検討

中嶋：参考資料1 コンペ
一般的にはもうレールが引かれている どんな車両 なイメージ
在来線 新幹線、リニアは走れない
設備側の話をしないと
ステップなごや あれありき
レールが決まっている
安全面、広いアイディア
設備もさわれるんだよ
この中にどう入れるのか
大きな変化は難しい

山田：意見

垂直昇降装置

歩み寄りが1年目より実感

我々もそう思っている

1年目は門前払い 聞く耳を持ってもらえない

垂直昇降装置 命綱ではないか

これが十分なものなのか

社会技術的 彼らの権利を守る権利に値しうるのか

障害者だけではなく、一般も関心が高いのでは

市民参加型の技術構築 スキームを取ってはどうか

募集部門 参考資料1 4つのジャンル

すごく大変

③垂直昇降装置 ここに焦点を絞ってどれくらいの技術ができるのか

どれくらいの人で合意ができるのか

フォーカスをして集中して議論する

スキームは原発なんかでも地元の人、メーカー 説明会

慎重にやるなら3日くらいかけて合意形成する

ここでも1.2時間でシャンシャン これで終わったね

事実関係だけを作ってお開き

クリティカルなところだけ

効率的な市民参加型アクション

そこで取れなかったらどうするか

十分満足できないものなら 障害者、高齢者 満足しない

これでおしまい 先に言われると、悪用 とられない

途中の報告もそうだが、配慮をして進めるべき

堀越：それを考慮して

小野：資料を見た時に、頭に「史実に忠実」できるだけ

バリアフリー 「できるだけ」修飾語がかかっているはず

できるだけ範囲をそれぞれの立場で具体化する必要がある

合意形成 事務方が大変ご努力されている

6人参加で話し合いができたか不明だが、どこかでそれぞれの

できるだけ範囲で提示して、合意形成に持って行ってほしい

バリアフリーコンペが終わったときに最終で はなく、詰めていく

結果的に落とすところは変だが、決まらない

協力したいし、行政もやってほしい

堀越：ほかに

矢野：この問題は、できるだけ「史実に忠実」と「バリアフリー」

完全に史実に忠実だとバリアフリーにならない

バランスをどうとるのか

コンペが「史実に忠実」一人歩き

動かせない価値 英知を結集しようというコンペが望ましい

これは排除して

コンペ出てきた結果 「前提がおかしい」

今の貫通型エレベーターではなく、バリアフリー配慮で史実に忠実

何とも言えない

エレベーターは何を指すのか

一気に貫通するのか わからない

コンペの前提としてどういう条件を付けるのか

あらためてフラットに考えた方がよい

「市民参加型」大事だと思っている

今回のワークショップ ペーパーで出てきたが、

ニュアンスがわからない

背景がなにかあるのか？

この前提ありきのワークショップには出ないのか

ペーパーと事務局からの発言で、「本当にそうなのか？」

開いたうえで

堀越：そういうことで事務局 経緯

いちおうワークショップは開かれた

垂直昇降装置

上り下り

障害者団体の人と実感として話し合いを

高齢者、ハンディキャップ

4 番目 ステップなごやの竣工

森本：ご意見ありがとうございます

本日会議の前に先生方に内覧いただいた

土日祝には一般の人に見ていただける施設

手元にリーフレットを配布した
活用についてご指導ご鞭撻を

堀越：なにか意見を

小浜：内覧会行った

立派な階段 階段がメイン
先ほどのアイデア 階段を利用したものを考えろ？
もちろん垂直昇降装置 吹き抜けがあった
観覧者に認識してもらえるかどうか

堀越：意見は

小浜：留意して

内覧 説明・キャプション 安全の配慮 まだ滞っている
万全を期したい

渡辺：実現方法 登ってみてわかった

蹴上高い 最後高い
転びそうになった 角度がきつい
後方転倒が考えられる
バリアフリー設備 みんなが使う
登りはみんなが登る
下りは危険
技術的な達成目標ではない
ユーザー 時間的なファクター
技術志向ではなく、ユーザー志向
つけたが使えない設備
地下鉄 車いすトイレはあるが、階段昇降装置で行かないといけない

堀越：ほかには

川地：階段見た

踊り場下41度 上は47度
普段住宅とそう変わらない
作ったことの意義はある

最上段蹴上が大きくなっている

畳を敷くため2寸くらい

天守閣部会 畳を敷くのか？

5階は畳を敷く

ほかは板のままなら、かまちを

「史実に忠実」 取り外し可能

45度くらいになる

階段昇降装置の生命は勾配

緩やかなら可能性がある

最上段のかまちを取り外すことで、可能性ができる

ほかの城郭建築ではなく住宅への転用も考えられる

堀越：せっかくできたので有効に活用を

先生方も

これで終わり

森本：ありがとう

最後に今後の予定

11月 2回目の障害者団体とのワークショップ

ブラッシュアップを図っていきたい

募集要項 先生方に中間報告をし、庁内会議を経て

あらためて場を設けたい

ありがとうございました